



パーツ大学生による身体測定
(2024年8月)

パーツ大学と名古屋市立大学の合同チームが世帯訪問で身体測定と聴き取り調査を実施した時の様子です。BiPHは計測機器の調達・発送を含む研究調整でも協力しています。

関連記事
【勉強会「てらこや」報告】
3つめもご覧ください



聴き取り調査(2025年1月)

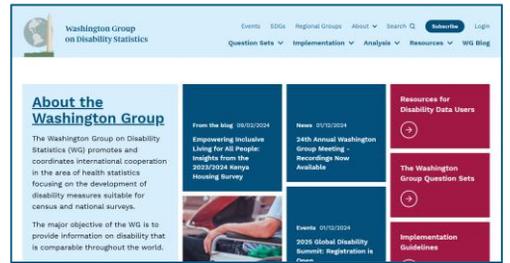
【ごあいさつ】

新しい年をどこで、誰と、どのように迎えましたでしょうか。皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。おかげさまでBiPHは昨年8月に設立10周年を迎えました。11月には年次総会が開催され、2024年度の事業報告と決算報告、2025年度の事業計画ならびに予算案が承認されました。(事業報告書と決算報告書は法人ウェブサイトでご覧いただけます。)

設立時に掲げた「人びとの健康(public health)のために行動する団体として、地域保健・プライマリヘルスケアの研究、人材育成、実践を相互に架け橋(bridge)する」取り組みは広がりを見せています。設立当初に始めた勉強会「てらこや」はもうじき100回を迎えます。講師派遣についても、国際保健、多文化共生と健康、障害と開発、医療ボランティア、国際協力などのテーマで全国各地でお話しています。次の10年に向けて、BiPHは今後も3つの事業「人づくり」「知づくり」「場づくり」に取り組めます。今年もどうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

【コラム：障害関連の政策提言に WGの活用】

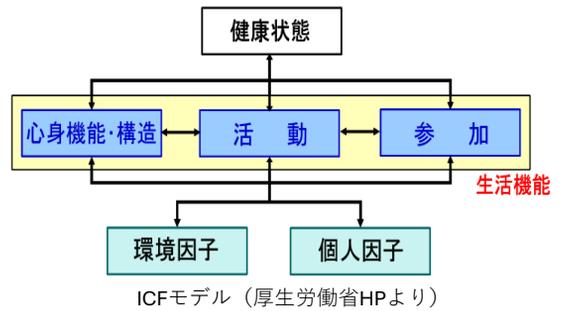
WG(The Washington Group on Disability Statistics:障害統計ワシントン・グループ)*1は国勢調査や国民調査に適した障害尺度の開発に焦点を当て、保健統計分野における国際協力の促進と調整を行っている団体です。世界中で比較可能な障害に関する情報を提供することを目的として、国連統計委員会の1グループとして結成されました。130以上の国・地域の国家統計局、7つの国際機関、6つの障害者団体の代表で構成されています。



(WGのHPより)

きっかけは2001年に障害の測定に関する国際セミナーがニューヨークで開催されたことでした。この会議において、特に低・中所得国*2では障害に関する既存のデータは乏しく、また質の低いものであることや、国際的に比較可能なデータを収集することが必要と確認されました。そのためには、障害者に関する統計における共通の定義、概念、基準、方法論が必要であるとして、人口ベースの障害尺度を用いた標準的な指標を開発することをめざすWG結成へとつながりました。

WGが開発したもののひとつに、調査フォームがあります。特徴は項目のシンプルさと質問のしかた。調査項目が一番少ない簡易版では、質問項目が6つだけ！また、質問のしかたも障害の有無ではなく、活動のしやすさ/しにくさとして尋ねるよう提言しています。質問フォームには「足に障害がありますか？」ではなく、「歩いたり階段を上るのが大変ですか？(&どれくらい大変ですか?)」と書かれています。「国際生活機能分類(ICF)」における心身機能や構造ではなく、「活動」に焦点を当てているのです。調査フォームは6種類あり、用途によって使い分けることが可能です。



WGが提案据えるシンプルな項目と質問には3つの意図が感じられます。1点目として「活動」に焦点を当て、活動のしやすさ/しにくさを尋ねることにより、障害の社会モデルの啓発・普及を図っていると思われる。2点目としては、障害(disability)があるかではなく、活動をするうえで大変か(difficulty)、という主観的評価にしていることで、これにより保健医療人材に乏しい国・地域でも採用しやすくしていると思われる。そして第3の点として、「障害」という言葉に含まれるネガティブなイメージを避けることで、回答者が答えやすくなり、より実態に即したデータが得られると思われる。

ちなみに、東ティモールでもWGの調査フォーム(簡易版)が使われています。2016年版の「人口保健調査(DHS)」では、障害のありかや程度と、居住地・教育・所得・配偶者の有無などとの関係が示されています。また、2022年版の国勢調査でも使われており、こちらは人口動態の社会・保健的特徴の一項目として取り上げられています。得られたデータをどのように政策に活かすのか、東ティモールをはじめ各国での取り組みを見守りたいと思います。

*1 <https://www.washingtongroup-disability.com/> *2 世界銀行による分類

【「学ぶことは変わること」ご紹介をお願いします】



デビッド・ワーナー氏のHelping Health Workers Learnを翻訳した「学ぶことは変わること 自分と地域の力を引き出すアイデアブック」は書籍版・PDF版ともに絶賛販売中です。まだお手元がない方はぜひご購入下さい。BiPHに直接ご注文いただけます。また、お知り合いの方や図書館などにご推薦いただけるとありがたく存じます。

なお、本を購入された方へのフォローアップとして、共同監修したアジア保健研修所(AHI)が「ちょい読みサロン」を開催しています。こちらもぜひご参加ください。(詳細はAHIにお問い合わせください。)

特設サイトはこちらから →



【勉強会「てらこや」報告】

*毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBでもご報告しています。

7月26日:みんなで走ろう! ~ユニバーサルランの取り組みを通じてインクルーシブなまちづくりを考える~

話題提供:山田規央さん(独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院、理学療法士)



「ユニバーサルラン」とは、子どもから高齢者まで、また障害の有無に関係なく参加できるランニング種目という意味です。新潟シティマラソンには「ユニバーサルラン」部門が設けられていますが、山田さんはこのユニバーサルラン部門創設に関わったお一人です。病院の患者さんとの交流がきっかけとなり、山田さんを含めた協議会のメンバーを中心に縦割り化した行政に横串を指し、コロナ禍でのイベント中止や縮小も逆手にとって、多くの関係者と連携して実現にこぎつけました。実際にイベントを実現したことや部門創設はもちろん大きな成果ですが、実現までのプロセスが、目に見えない成果物として関係者やイベント参加者にもたらしたものは大きいと思います。インクルーシブなまちづくりのヒントにつながると感じました。

山田さんが「スポーツを通して、誰もが当たり前前に社会に参加してよいという空気を作りたいだけなんです」とおっしゃった言葉が心に残りました。

9月27日:心で感じる多文化共生ワーク ~インクルーシブ防災・減災に求められる理想と現実の乖離からマジョリティへのアプローチを考える~

話題提供:磯貝明美さん(Diversity & Inclusion Nishi Tomo代表、看護師)

磯貝さんはNishi Tomoの代表として各種のイベントを主催するほか、防災アドバイザーとして、地域での防災講座だけでなく、外国人市民や聴覚障害者など対象の特性に合わせた防災講座なども開催しています。

勉強会ではマジョリティ・マイノリティの定義、マジョリティの無自覚性とそれが生み出す構造的差別の問題、その原因が個人ではなく社会の側にあることを学びました。そして、マジョリティ・マイノリティを問わず「誰もが安心安全に暮らせる社会」を作るための手段の一つとして磯貝さんは「やさしい日本語」を使うことを提案しました。

インクルーシブ防災という考え方は、過去の教訓から来ています。防災減災の正しい知識と情報を、誰もがわかる形で届けることが大切で、その手段のひとつとしてやさしい日本語が役立つことが理解できました。誰も取り残されたくない、取り残されたくない、そのためにできることを、一人一人が自分ごととして考える時ですね。



11月29日:東ティモールにおける母子栄養

-BiPHが支援する研究プロジェクトの進捗報告-

話題提供:高井久実子さん(BiPH会員、日本福祉大学看護学部教員)



この日はBiPHの今期の活動報告会として、1月から研究協力機関として関わっている、東ティモールの母子栄養に関する名古屋市立大学の研究プロジェクトを紹介しました。また、このプロジェクトに共同研究者として参加している高井久実子さん(日本福祉大学教員、BiPH会員)から、8月に実施した現地調査の様子をお話いただきました。

高井さんのお話をお聞きして、現地の教員や学生の保健データマネジメントに対する意識が、実際の研究プロジェクトを通して高まってきていることを知りました。BiPHがJICA草の根事業で行った支援が徐々に根付いてきた感じですが、2025年1月には質的調査を行うとのことですので、BiPHも協力機関としてバックアップしていきたいと思っています。

【今後の勉強会】

*ご確認やお申込みは、以下のウェブサイトをご覧ください。
<https://biph.jp/study-meeting/>

回	日時	テーマ	担当
94	2025年1月24日(金) 18:30-20:00	リハビリテーションに関する国際動向と データサイエンス	山口佳小里さん 国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究 部(国際協力研究領域併任)主任研究官
95	2025年3月28日(金) 18:30-20:00	リハビリテーション分野から考える 日本で暮らす外国ルーツの人たちへの支援	河野眞さん 国際医療福祉大学小田原保健医療学部教授 国際リハビリテーション研究会代表
96	2025年5月23日(金) 18:30-20:00	調整中	山田隆司さん NPO法人にこまる
97	2025年7月	調整中(聞いてみたいテーマがありましたらご連絡ください)	

参加費:BiPH会員500円/回(年会費と合わせてご請求します)
 非会員1,000円/回(クレジットカード利用またはコンビニ払いの場合)、または500円/回(口座振込の場合)

勉強会は原則対面とオンライン (Zoom) のハイブリッドで開催します。ただし、開催日時、方法、会場は回によって異なります。お申し込みの際はBiPHのウェブサイトで最新情報をご確認ください。

【「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」について】

「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！連絡会」は2023年8月1日より「公正な医療アクセスを世界のすべての人に！」連絡会に改称しました。医薬品・医療技術への公平なアクセスは、新型コロナが落ち着いた現在もなお取り組み続けるべき課題です。BiPHも団体としてこの連絡会に参加しています。参加する個人・団体は現在も募集中とのことです。詳しくは以下をご覧ください。(ウェビナーの貴重な動画や資料も公開されています。)

「公正な医療アクセスを世界のすべての人に！」連絡会

ご参加・ご協力の呼びかけ <https://ajf.gr.jp/covid-19/network-covid19/>

【編集後記】

今年には阪神淡路大震災から30年の節目の年です。皆さんは当時、どこで、何をしていましたか？災害で失うものは多いですが、「やさしいにほんご」のように、災害を契機に開発されるものもあります。阪神淡路大震災での教訓から生まれた「やさしいにほんご」は、海外ルーツの人だけでなく誰にでも役立つコミュニケーションツールとして、今では平時でも使われるようになりましたね。1月17日はHealth for Allについて改めて考える一日したいと思います。

【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける皆様からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。会員の種別、払込先は以下の通りです。また、ご寄付も随時ありがたくお受けしております。詳細は事務局までお問い合わせください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年
 振込先:ゆうちょ銀行 00870-9-126227 シャ)ブリッジズインパブリックヘルス

会報「BiPHかわらばん」2025年1月号(通算14号)

発行:一般社団法人Bridges in Public Health

代表理事:樋口倫代

〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2

TEL:052-846-5878 E-mail:adm.office14@biph.jp

URL: <https://biph.jp/>

FB page: <https://www.facebook.com/biph.adm/>



BiPH
 Bridges in
 Public Health